

天文学者たちの江戸時代



CHIKUMA SHINSHO

一二六〇年余り続いた江戸時代における天文学は、古代から続いた伝統的な考え方方に従いながらも、新しく入った西洋天文学の知識を取り入れて、大きな発展を見せた。江戸後期になると天文学者は地動説を知っていたし、天王星の観測も行っているなど……科学の目で見ても非常に興味深い時代である。

ちくま新書

1198

[天文学者たちの江戸時代_下载链接1](#)

著者:嘉数 次人

出版者:筑摩書房

出版时间:2016-7-5

装帧:新書

isbn:9784480069023

日本独自の暦を初めて作った渋川春海をはじめ、海外の知と格闘し、暦や宇宙の研究に尽力した「江戸の天文学者」達の思索をたどる。

「日本の天文学」の大転換は、江戸時代に起こった。日本独自の暦を初めて作った渋川春海、西洋天文学の導入を目指した徳川吉宗と麻田剛立、全国の測量で名を馳せた伊能忠敬、地動説に取り組んだ理論家の高橋至時、「機械おたく」の商人の間重富、シーボルト事件で獄死した悲運の秀才高橋景保…。先行するヨーロッパや中国の知識と格闘し、暦と宇宙の研究に情熱を燃やした江戸時代の天文学者たちの人生と思索をたどると、日本の宇宙観の変遷が見えてくる！

作者介绍:

目录: プロローグ 天文と暦—日本の天文学ことはじめ
第1章 中国天文学からの出発—渋川春海の大仕事
第2章 西洋天文学の導入—徳川吉宗・麻田剛立が開いた扉
第3章 改暦・翻訳・地動説—高橋至時・伊能忠敬による発展
第4章 変わる天文方の仕事—間重富・高橋景保の奮闘
第5章 西洋と東洋のはざまで—江戸の天文学の完成期
• • • • • (收起)

[天文学者たちの江戸時代 下载链接1](#)

标签

STS

Japan

EarlyModernChina

Astronomy

评论

[天文学者たちの江戸時代 下载链接1](#)

书评

[天文学者たちの江戸時代 下载链接1](#)